

## (様式3)

## 会 議 録

会議の名称	令和元年度 第2回東村山ふるさと歴史館協議会				
開催日時	令和2年2月5日(水曜)午後3時30分～5時00分				
開催場所	東村山ふるさと歴史館 研修室				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：  (委員) 石田武久会長・大井芳文副会長・島田弘之委員・長嶺すみ江委員・  當間シマ子委員・木村茂光委員  (市事務局) 中澤信也(ふるさと歴史館長)・齋藤文彦(庶務係長)・鈴木貴之(文化財係長)・長澤恵津子(庶務係主任)</p> <p>●欠席者：栗原康裕委員・時田俊輔委員・浜野進委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可 の場合は その理由	/	傍聴者数	なし
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 令和元年度東村山ふるさと歴史館事業実績報告および今後の事業予定(2月以降分)について (2) 令和元年度八国山たいけんの里事業実績報告および今後の事業予定(2月以降分)について (3) 令和元年度決算見込みについて (4) その他 ・市内小学校への出前授業について ・その他 3 展示説明「なつかしい暮らしと道具たち」 4 閉会				
問い合わせ先	教育部 ふるさと歴史館 庶務係 担当者名 齋藤・長澤 電話番号 042-396-3800(直通)				
会 議 経 過					
1 開会 ・会長挨拶 ・館長挨拶  2 議事 (1) 令和元年度東村山ふるさと歴史館事業実績報告および今後の事業予定(2月以降分)について ○文化財係長 まず全体的な話をさせていただきます。今年は令和の元年度ということで5月のゴールデンウィークが大連休でした。そのせいか全体的にこの時期のイベントは非常に人出が悪かったです。また年中行事のまゆ玉づくりや月見だんごを作るような伝統行事のイベントの参加人数が全体的に減っている傾向にあります。興味がなくなりつつあるのか、今年の連休が特別だったのか、そういったところも考えながら進んでいきたいと思えます。 それでは大きいところから順番に説明させていただきます。4/27～6/30は「税金今昔～租税資料からむらが見える～」租税資料を中心に税金の変遷の影響を江戸時代から。49日間の					

開催で3,150名の来館をいただきました。次に季節イベントの「こいのぼり・かぶとをつくろう」は去年32名の参加がありましたが今年は20名でこの人数変化はどちらの影響なのかということを考えていかなければいけないと思います。その後企画展の展示説明会が2度ほど開かれ、去年に比べると今年の参加人数が少なく、内容が古文書系ということもあるのかもしれない。古文書については6月に「古文書講座入門編」を2回続きで行いました。当館では古文書講座を行っており、去年が18名、今年は21名の新規会員の申し込みがあり古文書について知りたいというかたのニーズは大きいことがわかります。新しいメンバーが加わるため毎年同じようなレベルをやっており、熟練した方は講座を卒業され、登録人数は40～50名、そのうち30名前後が出席される形で開催しています。かなり高いレベルになって非常に良い成果が上がっていると思います。7月には夏休み対応展示「自由研究のたね」という小学生の自由研究に使えるように東村山の色々なことを展示させていただきました。縄文時代の編み方や郷土食の説明や野菜の花を当てるクイズなど27日開催で1,848名の参加をいただきました。

次の伝承サポーターガイダンスは協力してもらっている団体がありまして色々手伝ってもらったり勉強会を開いたりしているかたです。

今年は28日に「れきしかん夏まつり」がありました。全館を使い概ね子ども向けにいろいろな昔遊びの体験や今年は鎧を着るボランティアをお願いして子どもたちが甲冑を着ることができ非常に好評でした。去年241名でしたが今年は321名とかなり多くの参加をいただくことができました。全体的に80名増えていまして悪くない数字になっています。「子どもはたおり体験」は去年22名で今年26名と多い人数になりました。また同じように「古文書講座」があり、「子どものうどんづくり」は去年は二日で6名という結果だったので今年是一日にしてキャンセル等もあり結果的に7名の参加者でした。この後の「大人のうどん作り」は10名定員がその日のうちに埋まるような状況ですが、子どもの方はうどん作りは人気がないのかなというところですね。しかし止めるか止めないかは難しいところでもあるので、周知方法等考えながらできれば10名いっぱいになるのを目標に進んでいきたいと思えます。

10/5～12/1「東村山」地名誕生130周年記念展「狭山茶どころ東村山」。130年前東村山が合併して誕生し、その当時お茶と繭作りが盛んで、いただいたお茶作りのための古い道具を展示しました。入間市や他のところでもお茶の展示があったため後で図録だけ買いに来たというお話もありました。次は年中行事で「石臼でひいた粉で月見団子づくり」は参加が9名でした。次の「変わりゆく東村山を撮る」はカメラの撮影をやってみませんかという定点設定で定期的な同じ場所の撮影をしています。毎年数名の参加になっています。11月の「大人のはたおり体験」今回は15名ですが去年は24名でした。展示説明会や付属関係の事業が終わりまして、これから先の事業で大きいところを説明します。去年50名位参加のあった「多磨全生園を知る上映会」新しく出来たDVDの上映を行います。企画展の方は子どもの「ゆでまんじゅうづくり」があります。考古学講演会は1回目が65名とかなり参加が多いです。歴史館事業は以上になります。

(2) 令和元年度八国山たいけんの里事業実績報告および今後の事業予定(2月以降分)について

#### ○文化財係長

次にたいけんの里事業になりますが、里は基本的に去年と同じような形で事業をさせていただきました。ゴールデンウィークということで、去年よりちょっと少ない結果になっています。「自然観察会」は天候等の条件はありますが基本的には去年と同じ形になっています。後は大きいところでは5/26「こども縄文塾」を開きました。毎年やっていますが5・6年生を対象に縄文時代のことを実体験してもらおう。去年は21名の参加でしたが今年は30名の定員いっぱいになり盛り上がりました。それ以外はほぼ去年と同じような形で展開していま

す。11/3 に下宅部の「はっけんのもりへようこそ！2019」という大きなイベントがありました。先程の縄文塾のお子さんに縄文人の役で案内役として火おこし等いろいろ体験してもらい天候にも恵まれ去年と同等の183名の参加がありました。体験的な大きなイベントは参加が多いが年中行事を知ってもらうという意味もあり、なかなか難しいところではあると思います。今後の事業については「大人の縄文土器教室」と「考古と自然のコラボ講座」がありますがこの辺の専門的なところに非常に人気が高く、かなりの人数が来ていただけていると思います。以上です。

○A委員

参加者から次回こんなものをやりたいとか希望は聞いていますか。一方的に企画して来ないのではせっかく苦労して企画してももったいないので、アンケート等その中で良い企画を考えていけば。

○文化財係長

アンケートはとっています。参加されたかたは皆さん楽しんでいらっしゃるのでもらえれば。

○A委員

周知方法を少し変えてみるとか。

○館長

前回いただいた意見に子ども向けの事業に関しては各学校へ周知するというのがありますが、例えばたいけんの里の細かい事業は「はっちこっく通信」に網羅されています。今年度は学校に送るようにしましたが、なかなか結果に結びつかない事業もあり、我々も苦慮しているところではあります。

○B委員

里の読み聞かせがきっかけでここに加わらせていただくことになりましたが盛沢山でなかなか全部参加できないですね。今富士見小で子ども教室をさせていただいていますがお母さんで行って来たとか話してくれる子もいます。チラシ等いただいた時にはご案内をしています。

○C委員

PRが一番大事。まゆ玉づくり等昔の伝統を現代につなげていくのは大事なことだと思います。

○館長

大きな企画展はその都度校長会で話しています。里の細かい事業は「はっちこっく通信」で周知をしていますが、なかなか行き渡ってないということがもしかするとあるかもしれません。

○C委員

イベント前に学校に呼びかけをするのはどうか。私も江戸東京たてももの園でボランティアをしており、昔の暮らし体験を説明しています。学校から150人ずつ位見えて囲炉裏とか石臼の体験を毎日やっていますが年々知らない人が増えています。昔はおじいちゃんの家で見たとかありましたが最近ほとんど無く本の中で勉強という傾向です。

○館長

現在やっている「なつかしい暮らしと道具たち」は小学校の社会科見学の対応展示で毎年各学校3年生が毎日のように見学に来て囲炉裏とか黒電話とか子どもたちも珍しそうに見ています。

○C委員

体験は子どもにとって一番の喜びですね。まゆ玉なんかも昔はこうだったということを見せてあげたい。

○庶務係長

市報には必ず細かいものまで載せています。最後のカラーの面に里のイベント催し物を申

込制で定員 10 名等なっています。例えば里の事業では定員 10 人のところ参加者 9 人なので実は多いということもあります。何十人も来ると説明が粗くなるので 10 人くらいの規模が大体です。私も里の窓口で申し込みを受けますが、まだ空いていますかという電話が多くキャンセル待ちをする人も多いです。歴史館の考古学講演会も 1 回目は終わりましたが今日から第 2 回目の受付が始まり朝から電話が鳴り止まないくらい申し込みが殺到しています。広い分野での募集は集まってくる人が薄くなり、ピンポイントでは興味のある人がたくさん集まる傾向があると思います。まゆ玉は実はロビーに飾ってあったのですが今年は温暖化で暖かくてお餅やみかんの傷みが早く予定より早く撤去しました。社会科見学で来た若い先生は見たことがなくて説明させていただいたが、来ればそれなりに得るものはあると思います。

○D 委員

テーマを子ども向けにわかりやすくした方がいいと思います。例えば今展示をしている「なつかしい暮らしと道具たち」は子どもたちには懐かしいといえない。それならおじいちゃんおばあちゃんが子どもの頃の道具とか。まゆ玉づくりじゃなくて春のお祝いの形とか。子どもたちにはまゆ玉が何かわからないので、そういう風にすると子どもたちはイメージが出来るのではないか。保護者を対象にまゆ玉を作るのであればこれでもいいが子どもを対象にするのであれば中身は同じでももう少し子ども目線のテーマにした方がいいと思います。あんぎん作りも縄文時代の布をつくってみようとか、名前の付けかたが大人っぽいので、せっかく子どもに来て欲しいと思っても目線はあまり子どもに向いていない。もう少し工夫をすると子どもが入りやすくなるし関心を持ちやすくなると思います。

○C 委員

まゆ玉は子ども対象ですか。

○庶務係長

年齢は問わずです。年中行事体験は人数にかかわらず継続していくことに意義があるので。確かにここに来るまではまゆ玉ってお蚕さんの繭玉って思っていました。D 委員がおっしゃるようにネーミングを変えて結果的にはまゆ玉が出来るという方が子どもや保護者の心をキャッチすることになるのかなと今回それが気付きでした。

○副会長

事前にたくさんの資料を送っていただいたので、ここが多いんだとか分かってその点は良かったと思います。先程の説明は去年と比較した内容でしたので最初から去年と今年と二つの数字を並べた資料をいただくとまたいいなと思います。私も前から行きたい講演会がいっぱいあるのですがいろいろ重なってなかなか行けなくて申し訳ないのと、1 回目 65 人と凄く集まったんですね。私もこれ聞きたかったのですが「縄文人の死生観」という題も魅力的ですね。今度のも凄く興味があります。当日では満員で入れないという可能性はありますか。

○文化財係長

あります。資料の印刷があるので事前に申し込んでいただければ。

○副会長

各学校でも 3 学期になると地元のお年寄りが子どもたちに昔遊びなんてよくやったんですよ。私が秋津小にいる時も十数人のお年寄りがみえてそれぞれ教室を分かれて羽根つきやお手玉をしました。地元の方で応援して下さるかたがたくさんいるので。例えば今の子はやったことがないと思うのでこの部屋でメンコを教えてあげるのも面白いと思います。食べ物作りも大変楽しいのですが 10 人だけというのは。

○館長

隣の体験学習室で行いますが部屋の大きさもあり 10 名が限度かと。

○会長

まゆ玉づくりは 10 名がせいぜいですよ。大きな博物館でもそれ以上多く集まったらできません。10 名がせいぜいです。だから自信を持っていいです。

○庶務係長

有難うございます。

○会長

他に何かご意見ありますか。

○庶務係長

先程の考古学講演会は市外からも申し込みされる方が多いです。各博物館にチラシを配布しており、大変好評な企画なのでそれを見て好きな方はいらっしゃいます。

○副会長

リピーターを増やすために参加者に次回手紙を送ってお誘いするのはどうですか。

○庶務係長

考古学講演会は大変好評な企画でしっかり広報もしており申し込みも多いので。

### (3) 令和元年度決算見込みについて

○庶務係長

決算見込みですが、予算の執行状況ということでお話させていただきます。予算の執行なので決算が終わらないと公表できませんので、口頭で申し訳ありません。歴史館は文化財保護費とふるさと歴史館費の二つの大きい枠がありまして、文化財保護費の方では現在西武鉄道東村山駅周辺の連続立体交差事業が行われていますが、西武新宿線と国分寺線に挟まれた浅間塚が立体交差の事業用地になっていて高架になると大きい車が入れないので、文化財保護事業費の委託料を使って高木を伐採伐根して低木だけにする事業をしました。現在は低木のみで丸裸の本来の塚の状態です。歴史館費の方では今年度は空調関係の修繕を全部で8本、平成8年から開館しており個々の部品が経年劣化で壊れてきていまして、それらを整備させていただきました。猛暑の夏も館内にいれば涼しく、また資料の保存状態も良くなりました。また常設展示室に入ってすぐのヒストリーマップが何年もずっと壊れたままで5年位予算要求していましたが今年度の補正予算を獲得してやっと修理が終わりました。社会科見学の時も道が全部綺麗に光って子どもたちに見てもらうことが出来ました。この会が終わりましたら展示説明の前にヒストリーマップをご覧いただければと思います。予算の執行については順調に決められた工事・修繕は進んでおりまして、消防署の指摘事項であった屋内消火設備の修繕も終わりました。法定点検では何年かぶりに指摘無しというお墨付きをいただきました。一步ずつですがきちんと施設として維持管理するように努力しているところでございます。以上になります。

### (4) その他

・市内小学校への出前授業について

○文化財係長

市内小学校の出前授業についてですが、うちの方からまたは囃子連のかたに協力いただいて学校で授業を毎年おこなっておりますが、去年までは全部で11校と清瀬の特別支援学校の方に祭囃子を行かせていただいて子どもたちに見せていたのですが、実は今年は大きなライバルが現れまして、令和元年と来年にかけてオリンピック関連の予算が付いておりオリンピック関係の人に来ていただくのと3校からお断りがありました。今年は8校しか囃子連がまわることが出来ませんでした。来年復帰すると良いのですが。例年第六中でゆでまんじゅうの授業をさせていただいています。毎年小学1年生に行く「たぬきの糸車」というお話の糸車が何かわからないということで今年も2校糸車を教えに行きました。うちの方も各学校にいいのがあったらいくらかでも協力しますということでやっております。

・その他

○副会長

色々な所に「正福寺地蔵堂」とか説明板がありますね。市内にたくさんあると思うが字が読めなくなっているものがあり、何年度に何か所直るとか修理の予定はどうなっていますか。

○文化財係長

今年度は「一石六地蔵」を、来年度は二つ。足元から直すとかなりかかるが、板だけだと少し安いので二個ずつという感じです。全部一気に直したいのですがなかなか難しいところで申し訳ございません。

○会長

費用がだいぶかかるので委員からの要望としてあげても良いが。以前東山道武蔵路を作った時に確か10万円だったと思う。1か所10万円もかかるのかとびっくりした。

○副会長

何か所もとなると10年がかりということになるが、計画はありますか。

○館長

うちでも必要なものなので予算要求は当然しております。市の全体予算の中での判断で配分されるので、引き続き予算確保に向けて取り組んでまいります。

○C委員

東村山駅の西口のロータリーから出た信号の所に「ふるさと歴史館」の小さな看板があるが垣根で見えずせっかく付いているのに残念といつも思います。

○A委員

社会教育の担当と観光という視点で観光案内板の整備も段階的にやっています。文化財の案内板と観光案内板はセクションが違うので。

○館長

皆様には私と齋藤の方からご連絡をさせていただいている所ですが、この協議会委員の任期が今年の3月31日でこの期が終わり次の期に入ります。今回ご出席いただいているかたの中でこれをもって退任を予定されているかたがいらっしゃいますので急で申し訳ありませんが一言でもいただけるとありがたいと思います。

○A委員

この3月で定年退職をすることになりまして、この協議会は一年間のお付合いをさせていただきましたが何もわからない中で自分なりに一生懸命やったつもりです。また館長から後任に継続するという話もありますのでこれから後任が決まりますが後任共々よろしく願います。大変お世話になりました。有難うございます。

○C委員

私もお世話になりました。若いかたを後任に充てていただきたいと思います。ここで次のかたに代わりたいと思います。お世話になりました。

○館長

有難うございました。

3 展示説明「なつかしい暮らしと道具たち」

4 閉会